



優  
し  
い  
声  
を  
か  
け  
て  
く  
れ  
る  
高  
土  
市  
に  
ひ  
と  
き  
者  
ら  
し  
老  
人  
に  
周  
り  
の  
八  
が

小林  
糸子さん  
(上和田町) ボランティア



話しあ手となりなり、今ではお年寄り  
の力も重んじて待つてくれます。

これから、高齢化社会を迎えて  
ひとり暮らし老人や老人世帯は、  
ますますふえます。そんなとき、  
周りの人々が気楽にボランティ  
アとしてお年寄りに声をかけてし  
られるような富士市になつてほし  
と思します。

また、元気なお年寄りは、お年  
寄りなりの社会参加ができるよう  
な行政を考えてくれださい。



食事サービスのボランティアを  
始めて二年がたちました。食事サ  
ービスとは、ひとり暮らし老人の  
家へ一週間に一度、駿河荘（老人  
ホーム）でつくりた食事を運ぶも  
のです。

食事の献立が老人向けておもしろく、しかも安いとあってお年寄りには大変好評です。

まだ、食事を運ぶことを通じて



新幹線新駅は昭和63年春には開業します

渡辺  
裕久君  
大渕第一  
小学校六年生

はくは、あすべ細士也に新  
幹線の駅がでれるというので、友  
達と一緒に駅のことを考へました。  
駅の建物は外国人にも来ても



ちいたいので、富士山をシンボルにして、大きく目立つ形にしたらいいと思します。

駅の一一番上はレストランと展望台にしてその下はデパートにします。改札口は、駅員さんも楽になります。もう全自动のロボットをつけてます。

そして、立派な駅でも汚ない駅だと嫌われるので、ゴミ一つないきれいな駅にしたいと思します。

ぼくは、新幹線が富士市に止まつたら、まず一番に乗つてみたのです。

富士市はこどりし、昭和七十五年（西暦二  
千零）を目標年次としたまちづくり計画  
「ふじー二十ー世紀プラン」を策定しました。  
た。その多くの課題の中から、高齢化社  
会、新幹線新駅、文化会館、保健婦人セ  
ンターについて、四人の市民の方に、考  
えを聞き、意見をあ聞くしました。

官田市に立派な文化がある。それが最も適なものを最も多くを取適に最も多くをもつてゐる。

河野 勝義(畠中本町) 河野 勝義(畠中本町) 河野 勝義(畠中本町)



「富士市は文化かな？」とよく耳にすることがあります。本当にそういうでしょうか。私は、それは大それなまちがいだと思います。「文化がない」とおっしゃる人は「文化」の意味をひどく高級で難しいものとお考えではなうでしょ、うか。

私は文化とは「その道を志し、その道にいそしむ」とて人のじを豊かにし、潤すをやめた。やめたの「そのじを豊かにします。

るのです。  
ましてや、  
おおむねこれが文

絵画を楽しむことだけが文化ではあります。婦人が民謡を歌つたり、お年寄りが陶芸を楽しみ、仲間の輪を広げていけば、それはもう立派な文化と言えます。そして、文化は地方の特色があります。富士市には富士市の文化があり、

ましても、富士市にはこれが文化だと見えるものがあります。それは、市民憲章です。市民憲章の条文には直接文化という言葉は出てきませんが、表現していることは、富士市の文化そのものです。

ところど、私は、近い将来建てられるもう一つ文化会館に大きな期待を寄せています。

一 ホテル文化活動と並んで、ステージを使用する団体もあれば、展示室を必要とする団体もあります。また、音響を優先する団体もありますが、ホールの人気度を第一に考える団体もあります。そういうふうに、いろいろな団体の現況をまずは把握し、どのような文化会館が、土市の文化にとってベストなのか検討してほっと運んでます。

文化会館が市民の文化の場と情報と整体を提供してくれる文化の要となることを期待します。

森下 操介さん（宮崎新田）健康づくり推進団

五年前、からだが丈夫でなかつた私が、ひょんなことから健康づくり推進員となりました。

とあるところで、婦人のネットワーク化が進むことに期待してしまいます。

いろいろな活動の中で、ひとしては、「健康は丈夫な歯から」と歯科衛生士さんとともに、親子の歯磨き體験を行つてこます。子供向けに紙芝居をしたり、おやつの与え方なども研究してこます。

さて、昭和六十二年度から現在の県合同庁舎跡に保健活動や婦人活動の拠点となる保健婦人センター

そして、お互に情報の交換ができる、おのずと活動の幅も広がるでしょう。

女性の社会参加がますます積極的になると、女性の立場に立つた保健婦センターを望みます。

所へ行く事もやが、可となへかた  
括くへ感じしとがおりま  
す。その点、婦人がメインの建物  
なら精神的に収斂に求めもうべし  
会議用なども簡単には見えぬよ、  
にしてゆき入れざりがたつてゆく  
せた、婦人の活動が一ヵ所こも

This is a black and white aerial photograph of a forested area. The majority of the image is filled with a dense canopy of trees, showing various shades of gray and black. In the lower-left quadrant, there is a distinct clearing where the ground appears lighter and more uniform. A few small, dark, irregular shapes are scattered within this clearing, possibly indicating cleared land or small structures. The overall texture is grainy and has a high-contrast, almost abstract quality.

所へ行廻りやが、可となへかた  
括くへ感じしとがおりま  
す。その点、婦人がメインの建物  
なら精神的に収斂に求めもうべし  
会議用なども簡単には見えぬよ、  
にしてゆるはれどもがたつてゐ  
せた、婦人の活動が一ヵ所こも

This high-angle aerial photograph captures a vast expanse of a dense forest. The canopy is composed of numerous dark, irregular shapes, suggesting a mix of mature trees and undergrowth. A prominent feature is a large, roughly circular clearing in the center-left, which appears lighter in tone due to the absence of dense foliage. From the bottom edge of this clearing, a single, thin, dark line extends upwards and to the right, representing a road or path. The surrounding terrain is a mix of different shades of gray, indicating varying levels of vegetation density or perhaps different types of terrain like rocky outcrops or different soil compositions.

